段ボール原紙2割高

対中輸出 中国、電力不足で減産

前年比

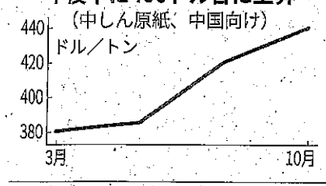
段ボール原紙の輸出価格が上昇している。主力の中国向けは1カ月で5%高くなった。前年同期に比べた上昇率は2割に達する。中国国内の電力不足で、工場の操業を停止する製紙会社が出ているもよう。現地では段ボール製品が値上がりし、日本からも高値での調達がみられる。海上運賃の上昇も値上がりにつながった。国内の原紙価格を支える要因になる。

強度をもたせるため波形に加工した「中しん」の中国向け輸出価格は、10月生産分が1トン440ドル前後。この1カ月で20ドル(5%)上がった。今春には380ドル前後だったが、夏ごろから400ドルを超えてきた。

もともと環境規制の一環で中国政府が古紙の輸入を今年から全面的に禁止。製品である段ボール原紙の輸入が増えていた。夏以来の電力不足が重なり、操業を停止する製紙会社が出ている。

品不足を背景に、現地では製紙会社が段ボール原紙を値上げしている。東北部の遼寧省にある段ボール箱メーカーの幹部は「中国で調達する段ボール原紙の価格は10月時点で9月と比べて10%前後、昨年12月と比べると20%以上上がった」と打ち明ける。

年後半に400ドル台に上昇



中国税関総署によると、中国の段ボール原紙の8月の輸入量は約47万6千トンと、前年同月を26%下回る。足元の景況感の悪化もあり、9月も日本の輸出は前年を下回ったようだ。

ただ東南アジアでの新型コロナウイルスの感染再拡大で、「ベトナムなど東南アジアで製紙工場の操業が落ち、中国向けの原紙輸出が減った」(古紙問屋)。需要を賄うには、日本製の原紙を高値で調達せざるを得なくなっている。「コンテナ不足などに伴う海上運賃の高止まりも価格に転嫁された」(日本の製紙会社)

原紙の輸出価格は国内価格より安いものの、国際価格の上昇が続くと日本の需要家は値下げ要請をしにくくなる。

輸出価格が上昇しているなかで、製紙会社は輸出を機動的には増やしにくい。国内で原料の古紙が不足しているためだ。

新型コロナ禍で古紙回収が滞り、指標となる関東製紙原料直納商工組合(関東商組、東京・台東)の9月末の流通在庫(32社分)は1万4707トン。在庫率(出荷に占める在庫の割合)は10・9%で、適正とされる15%を大きく下回る。

中国向けは国内価格を下回るが、「電子商取引(EC)市場が拡大を続け、段ボール需要も増加する」(紙商社)。製紙会社にとって重要な成長市場だ。

一方で国内需要家向けには安定供給が求められている。「製紙各社は7月ごろから生産を調整して輸出向けを抑えた」(古紙問屋)。製紙会社は、国内外へのバランスがとれた供給が課題になっている。

(黒瀬幸葉、大連=渡辺伸)

中古マンション 都心6区で下落

9月、11カ月ぶり 首都圏なお上昇

東京カンテイ(東京・品川)がまとめた9月の中古マンション平均希望売り出し価格(70平方メートル換算)は、東京都心6区(千代田、中央、港、新宿、文京、渋谷)が8月に比べ13万円(0・2%)低い9239万円と11カ月ぶりに前月を下回った。首都圏全体は5カ月連続で上がっているものの、伸び率は鈍った。

東京都全体では5876万円と49万円(0・8%)高く、15カ月連続で上がっている。新型コロナウイルス禍で在宅時間が増え、住みやすさを追求し購入を急ぐ需要はなお旺盛だ。

都心6区は職場にも近く在宅勤務・出社のいずれにも対応しやすい。この1年、黒、大田、世田谷、中野、杉並)は48万円(0・8%)高の6212万円とわずかながら上がった。

首都圏全体は8月に比べ62万円(1・5%)高い4305万円だった。埼玉県、千葉県、神奈川県でいずれも上昇している。近畿圏は19万円(0・7%)高い2653万円だったが、中部圏は4万円(0・2%)低い2137万円と下落に転じた。

NY貴金属 乱高下

米インフレ巡り思惑交錯

貴金属の相場が乱高下している。22日のニューヨーク先物市場で金と銀は一時約1カ月半ぶりの高値をつけたが、その後は売られた。プラチナ(白金)も一時約3カ月ぶりの高値をつけた後に下落した。

米国のインフレ懸念や長期金利の低下で金利のつかない貴金属の投資妙味が増すとの見方が出る半面、利上げ観測も台頭。強弱両方の材料が出ている。

金は22日、一時前日比2%高い1トロンオンス1815ドル台をつけた。ただ1800ドルを超えたことで「利益確定売りなども出た」(金融・貴金属アナリストの亀井幸一郎氏)ため終値は1796ドル台だった。日本時間25日の時間外取引でも1800ドル近辺で推移した。

ほかの貴金属も金に連動した。銀は22日に一時前日比3%高まで上昇したが、同日の終値は1%高にとどまった。

米債券市場の期待インフレ率を示すブレーク・イーブン・インフレ率(BEI)は、10年物が約9年ぶりの高い水準だ。インフレに備えた買いが貴金属に入りやすい。

求人広告件数、9月37%増

人材サービス会社でつくる全国求人情報協会(全求協、東京・千代田)がまとめた9月の求人広告掲載件数(職種別、週平均)は前年同月比37・0%増の94万4715件だった。前月からは2・5%伸びた。製造現場を中心に、新型コロナウイルス禍でも慢性的な人手不足の業種が全体をけん引した。

「生産工程」は前年同月比2倍の7万6499件。求人サイト「バイトル」を運営するディップによると「食品メーカーなどは年末年始の繁忙期に向けて増員を始めた」という。倉庫内でのピッキング作業や荷造りなどを含む「運搬・清掃・包装等」は同41・6%増の12万3573件だった。同様に年末に向けた採用強化を図った。

休業や時短営業などを迫られた飲食も採用を回復させている。「調理」は同46・8%増の7万6804件、「給仕」は9万5356件と同40・6%伸びた。同様に「販売」は同16・6%増の16万2080件だった。

全求協が求人情報会社を対象に集計した「求人広告ウオッチャー調査」によると、9月の企業の求人意欲を示す指数(100に近づくほど意欲が高い)はアルバイト・パートが53・5と前年同期を上回った。

一方、米連邦準備理事会(FRB)の利上げ観測もある。相対的な投資妙味の低下を見越した売却も出たようだ。

生鮮取引 活気じわり

時短解除、卸値下支え

コロナ前回復遠く

新型コロナウイルス対策に伴う飲食店への営業時間短縮要請が25日、5都府県で解除された。東京都中央卸売市場などでは飲食店向けの生鮮食品の取引に徐々に活気が戻り、卸値も下支えされているようだ。ただ、「注文量は予想以下」との声も目立つ。飲食店の閉店が多いほか、人手の確保や感染再拡大への警戒感から営業再開の延長に慎重な店もまだ多い。

「すし店や料理店の注文が戻り、魚種に限らず品質の良いものの値段が下がらなくなった」。豊洲市場(東京・江東)の水産卸は語る。ハマチやタイといった活魚やウニなど高級魚介類全体の足元の売上高は前年の同じ時期に比べ7%高い。月初の緊急事態宣言の解除直後は台風によるしけで入荷が悪化したが、10月第2週以降は順調に入荷し売上高も好調だった。

水産仲卸も22日には「久しぶりの忙しさを味わった」と客足の戻りを実感する。休業していた外食店や個人経営店が再開。ホテルからも婚礼関連の注文が戻りつつある。

売り場には客足が戻りつつある(東京都江東区の豊洲市場にある水産仲卸)

高級食材の和牛はホテルや外食店の注文が増えてきた。ロースやヒレといった高価格部位の注文が目立ち「在庫がない状態だったので、足元ではコロナ前並みの注文が来ている」(食肉卸ニイチク=東京・江東=取締役)。

居酒屋でサワーなどに使う輸入レモンも販売が伸びてきた。都内の青果商社によると、足元の販売量は9月同時期比で5割増えた。宣言解除直後の注文は鈍かったが、「目に見えてペースが上がってきた」(担当者)。

都内の専門商社では、外食店で多く使う皮むき加工した中国産タマネギや長ネギの10月の販売は9月を5割上回る。「需要回復を実感する半面、中国からの船便が遅れて入荷が少なく品薄感が強まっている」。タマネギの調達価格は1キロ95円程度で前年同時期に比べ2割高い。

もっとも、需要がコロナ禍前の水準に一気に戻ったわけではない。居酒屋など飲食店数の減少が一因だ。外食企業などで作る日本フードサービス協会(東京・港)の会員企業の9月の店舗数は2020年9月比3・7%減。19年9月比では7・1%少ない。

緊急事態宣言下でアルコールを伴う飲食の営業時間の短縮要請が続いた。「これ以上下がることはないのでは」(ニイチクの植村一郎取締役)。農畜産業振興機構(東京・港)によると、下落基調だった東京市場の和牛A4(去勢)の卸値に下げ止まり感が出てきた。9月の平均価格は1キロ2313円。1月に比べ4・7%(115円)安いが5カ月ぶりに前月を上回るなど「これ以上下がることはないのではないか」(ニイチクの植村一郎取締役)。

イトやパートを解雇したことも響いている。大手居酒屋は「人手確保が間に合わない。客足が戻るかも不透明だ」と25日以降も主力業態で時短営業と全体の3分の1の店の休業を続ける。

水産仲卸も「店を満席にしたくてもホールが回らず、思うように稼働できていないようだ」と話す。

居酒屋需要が多いマグロも「この1カ月は値動き、数量ともにそんなに変化はない」(水産卸)。輸入レモンの販売量もコロナ禍前比では3割少ない。豊洲市場でレストラン向けにハーブやキノコなどを販売する青果仲卸は「宣言解除で大量に注文が入ると期待していたが、期待値を下回った」と話す。

水産仲卸は「売上高は19年比だと6割、20年比でも8割の水準にとどまる。コロナ前に戻るのは年内は厳しいのではないか」と話す。

(杉山麻衣子、大槻陽子、田中阜紀)

鉛建値、1万8000円上げ

三菱マテリアル

三菱マテリアルは25日、鉛の国内相対取引の目安となる建値を1万8千円引き上げ、1トン34万2千円とした。為替の円安傾向や堅調な国際相場を反映した。

主要相場

	東京	大阪
H形5.5×8×200×100ミリ	104—107	105—107
軽量C形 2.3×100×50×20ミリ	152—154	150—155
▽鋼スポット物(星形鋼		
上白	198—199	198—199
白ざら	221—223	221—223
中ざら	221—222	221—222
グラニュー(並)	201—202	201—202
同(同・一般)	014—14.5	014—14.5
同(福島・会津産)	10.3—11	10.3—11
同(同・中通り)	9.7—10.1	9.7—10.1
▽普通合板Ⅱ類 (F☆☆☆☆) 2.3ミリ	700—720	
4ミリ	870—890	
角管(STKR400) 100×100×2.3ミリ	158—162	
大径角形鋼管 (開閉伸間、1トン90~120日		

◇米国産 テンダーロイン(冷凍、189A規格)

	3.3—3.4	3.3—3.4
同(チルド、ステーキ用、189A規格)	3.3—3.4	3.3—3.4

東京 鶏卵	LL	215	233	208
	L	210	229	203
	M	205	224	198
	MS	200	219	193
	S	175	193	168

◇福岡=大玉安 入荷240トン

全たまご	LL	210	229	203
	L	210	230	203
	M	200	220	193